

英語科研究プロジェクト

中高一貫教育におけるオーラル
コミュニケーション能力の育成を目指した
実証的研究とカリキュラム編成 (1)

(3年計画1年次)

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

鈴木 文子・加藤 裕司・谷口 幸夫
寺田 恵一・辻 弘・八宮 孝夫
手島 良・久保野雅史 (学校教育部)

英語科研究プロジェクト

中高一貫教育におけるオーラル
コミュニケーション能力の育成を目指した
実証的研究とカリキュラム編成 (1)

(3年計画1年次)

筑波大学附属駒場中・高等学校 英語科

鈴木 文子・加藤 裕司・谷口 幸夫
寺田 恵一・辻 弘・八宮 孝夫
手島 良・久保野雅史 (学校教育部)

目次 (執筆担当者)

1. はじめに (寺田)
2. 授業実践報告
 2. 1 中学1年生 (寺田)
 2. 2 中学2年生 (久保野)
 2. 3 中学3年生 (辻)
 2. 4 高校1年生 (鈴木)
 2. 5 高校2年生 (谷口)
 2. 6 LLの活動 (加藤)
3. おわりに (寺田)

1. はじめに

平成元年3月に改訂された学習指導要領では、中学校と高等学校の外国語科の目標として、「外国語で積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育てる」ことがあげられている。中学校では1993（平成5）年度から、高等学校では1994（平成6）年度から実施される新しいカリキュラムの中で、オーラル・コミュニケーション能力の育成を目指すことは、大きな意味を持っている。

本校の英語科では、「中高一貫教育におけるオーラル・コミュニケーション能力を目指した実証的研究とカリキュラム編成」というテーマに3年計画で取り組むことになった。初年度の本年は、主にオーラル・コミュニケーション活動の実践を報告することを目標にした。本校では、1991（平成3）年度からAETとのチームティーチングを行っている。又、1989（平成元）年に設置された新しいLL教室で、LLの学習指導も豊富に展開してきている。オーラル・コミュニケーション活動が、チームティーチングやLLでの学習指導と密接な関係があることは改めて言うまでもないことであるが、オーラル・コミュニケーション能力の育成は、教科書を使った教室での授業においても求められることなのである。オーラル・コミュニケーションは本校の教育活動の重要な柱として、あらゆる場において位置づけられ実践されるべきである。

本校では、1994（平成6）年度から高校で「オーラル・コミュニケーションB」を新しい科目として始めることが決定されている。オーラル・コミュニケーションの活動事例を検討しながら、今後、各学年における目標、中学校と高等学校の連携、さらにカリキュラム編成の問題等を考察していきたい。

2. 授業実践報告

2. 1. 中学1年生(46期生)

2. 1. 1. Classroom Englishについて

46期生は本校に赴任して受け持つ最初の生徒であり、さらに中学1年生ということもあり、是非Classroom Englishを用いて授業を行いたいと考えていた。Warm-up, Oral Introduction, Reading, Practice, Consolidationなどで行った実践例を次に紹介する。又、問題点や課題についても述べる。

(1) 授業の各stageにおけるClassroom English

(a) Warm-up

授業は“Good morning, everyone. How are you?”というGreetingから始まる。次に、出席の確認に移り、“Is everybody here?” “Who is absent today?” “Did Yamada catch cold?”などと述べる。天候や日付に触れることもある。行事が終わった後に、たとえば、“Did you enjoy the school trip?”などと質問したこともあった。

(b) Review

Reviewには、日本語から英語に直すOral compositionを最も多く用いたが、その際“Put these sentences into English.”と指示した。Chorus readingやIndividual readingもよく行ったが、その時は、“Let's read page 9 together.” “Read the first two sentences, Tanaka.”などと指示した。単語の小テストを行う時は、“Close your books and notebooks and put them away.”とまず述べて、教科書とノートをしまわせた。

(c) Oral Introduction

Picture cardを使って内容や文型を説明する時は、“Look at this picture and listen to me.”で始めることが多かった。新出単語を英語で説明する時は、絵やジェスチャーを用いる以外Oxford Elementary Learner's Dictionary of Englishの定義を参考にした。しかし、定義が難しすぎるが多かったので、自分でも例文を作った。例えば、all the way(ずっと)を説明する時、“I stood all the way from Ikebukuro to Shibuya this morning.”という文を生徒に示した。

(d) Reading

Readingには、大きく分けて黙読と音読がある。黙読は内容を理解させることが目的であり、通常音読の前に来る。黙読させる前には、生徒に“Answer these questions.”と言ってPrequestionsを与える時もある。黙読の後に、Model readingを行ってExplanationを行う。難しい箇所は日本語を使って説明するが、その場合でも英語で“What does this sentence mean in Japanese?”と尋ねることが多い。音読の時の指示については、(b)Reviewで説明した。

(e) Practice

Practiceには、文型中心のPracticeとCommunication活動中心のPracticeがある。Communication中心の活動例として、Interviewがある。この活動を行う時は、最初に“Now make pairs. First, one of you will ask your partner these questions.”と言って始めることが多い。

(f) Consolidation

Consolidation（まとめ）では、本文の内容についてQuestions in EnglishやSummary, pairによるRead and look up,宿題の提示などを行った。Read and look upでは、“Don't look down. You must look at your partner's eyes.”と言って、eye contactを強調した。宿題を提示する時は、例えば、“Write part 1 three times in your notebook. Don't watch TV when you do your homework.”“Prepare for your word test tomorrow.”のように指示した。授業の最後は、“That's all for today. Good-by, everyone.”と述べてまとめた。

(2) 今後の課題

週5時間の英語の中で、教科書の指導に使っている時間が2時間しかないので、日本語による説明に時間を取られて、実際にClassroom Englishを用いている時間は全体の4割弱程度である。今後、AETとの授業（週に1時間）にも教科書を時々活用して、英語を使用する時間を増やしていきたい。又、生徒の発言に対する訂正、励まし、評価などについてより工夫していきたい。生徒は指示されたことは、比較的積極的に反応するが、自発的に教師や他の生徒に英語で話しかけることが少ない。これを解決するためには、もっと生徒が主体的に参加するCommunication活動を取り入れなければならないと思う。

授業のProcedureの中では、Warming-upの活動が貧弱であったと思う。textを離れて、トピックを展開したり、rhythm trainingやjazz chantsなどの発声練習などを行ったりしていくことを今後考えている。

2. 1. 2. One-minute Speechについて

本校のAETのMrs. Petersenはオーストラリアの出身で、元小学校の教員である。actingやdrawingの学校に通った経験があり、Communication活動の指導に最適の人物であると思われる。中学1年生の3学期の、Mrs. Petersenとのteam-teachingの授業で、全員にOne-minute speechを行わせた。

スピーチのテーマは“My family”で、授業の初めに8人ずつ行わせた。speechを行わせる前に、樋口忠彦（1991）「英語楽習——クイズ・ゲームからコミュニケーション活動まで」の中の『家族紹介』の生徒作品例を生徒に配り、家族の紹介の仕方を説明した。更に、Mrs. Petersenがスピーチの始めに“I'm going to talk to you about my family.”、終わりに“We are a great (wonderful, super) family. Thank you.”と述べるようにアドバイスした。又、スピーチの最中は、できるだけ原稿から顔を上げて、聴衆の方を見るように注意した。

各生徒のスピーチが終わった後に、Mrs. Petersenが私が生徒に2, 3質問をした。生徒は全

体としてよく準備していて、大きな声ではきはきとスピーチする者が多かった。8名のスピーチが終わった後に、構文や単語、更に発音の誤りについて、特徴的なことについて、Mrs. Petersenが指摘した。この時でもできるだけencouragingな雰囲気を保つように努めた。

今回はスピーチの評価を行わなかったが、2年になって行うコミュニケーション活動については評価を出すつもりである。

最後に生徒のスピーチの例を2つ原文のまま紹介する。

(例1)

I'm going to tell you about my family. There are four people in my family.

My father's name is Yoshimi. He works very hard for us. My mother's name is Kyoko. She does housework very hard. I thank them.

My brother's name is Goro. He likes playing baseball very much. My sister's name is Mina. She can swim very well. We are a great family. Thank you.

(例2)

I'm going to tell you about my family. I have a family of four.

My father's name is Hideaki. He lives in Nagoya. He is office worker. He can play tennis. He likes Japanese food. My mother's name is Michiko. She is housewife. She is such a good tennis player. She likes sumo very much.

My sister's name is Kaori. She is high school student. She plays the piano very well. We are beautiful family. Thank you.

2. 1. 3. 参考文献

樋口忠彦, 守屋雅博, 高橋一幸ほか (1990) 「英語楽習——クイズ・ゲームからコミュニケーション活動まで」 中教出版

高梨康雄, 高橋正夫, Adams, C.R. (1992) 「教室英語活用事典」 研究社出版

2. 2. 中学2年生(45期生)

2. 2. 1 各学期末の実技テスト——「面接テスト」の試み

実技テスト、というと、まず連想されるのは、体育、音楽等のテストである。こういった教科ではなぜ実技テストが実施されているのか。答えは明白である。筆記テストだけでは、学習者が身につけた技能を適切に評価することができないからである。同じことは、英語にも言える。中学・高校段階の英語の授業の目標は、学習指導要領にも示されているように、「聞く・話す・読む・書く」という四技能をバランス良く身につけさせることである。それでは、この四つの技能は、それぞれどのように評価することが可能だろうか。

学期末に行われる一斉テストを考えてみる。このテストにおいて測定されるべき力とは何であろうか。言語に関する知識の有無を問うだけでは不十分であろう。聞く力・話す力・読む力・書く力を、ダイレクトに評価すべきだろう。実際にこれらの活動を行わせない限り、当然のことだが、その測定は不可能となる。それでは、学期末の一斉テストにおいて、これらの四技能はすべて測定可能だろうか。テストの内容・方法を工夫すれば、「聞く・読む・書く」能力は測ることができる。しかし、「話す」力はどうか。これは、どう考えても一斉テストでは無理である。会話表現の知識を筆記テストで問うことは、「話す」力の測定とは似て非なるものである。従って、CLT (Communicative language testing) の理論に基づいた、「Cambridge英検」においても、一次テストでは、「聞く・読む・書く」力を測るのにとどめ、「話す」力は2次テストの面接(oral interview)で、切り離して評価されている。詳しくは、根岸(1993)に紹介されている。

期末の筆記テストでは測定できない能力は「話す」力である。そこで、各学期末の授業時間を面接テストにあてることにした。タイトルの「実技テスト」とは、このことである。

(1) なぜ、実技テストが必要か?

若林・根岸(1993)でも指摘しているように、ある単語が正しく発音できるかどうかは、実際に発音させてみなければわからない。筆記テストによく見られる下線部の発音の差異を問うような問題では、フォニックスの知識は測れるかも知れないが、運用力は保証できない。

従って、実際に発話させる等の何らかのコミュニケーション活動を行わせ、それを直接評価する機会が必要となる。実際の活動(performance)を、どのように評価して行くか、という具体的な例は、樋口・菅(1993)に詳しく述べられている。

面接テストに相当する内容を一斉テストで行うことは絶対にできないのだろうか。必ずしもそうは言えない。例えば、いくつかの質問に適切に回答できるかどうかをテストとする。これだけならば、LL教室でも実施可能ではある。生徒全員にカセットテープを用意させ、ヘッドセットを通して聞こえて来る質問に対する答えを録音させるだけでよい。これを回収して再生すれば、生徒全員の音声をチェックできることとなる。(ただし、回収の際には次の2点を忘れずに行うことが大切である。(a)テープは一斉に巻き戻し、頭を出しておく。(b)カセットテープに組・

番号・氏名を記入させる。これが徹底していないと、聞きなおす時の手間が倍以上になってしま
う。) 仮に、1分間のテストを実施したとする。1クラス分の採点に要する時間は、1時間程度
であり負担にはならない。実践例は、小泉(1985)に詳しく述べられている。

確かに、この方法は、一斉に全生徒をテストできるという利点を持っている。しかし問題点も
少なくない。受験者は、次から次へと一方的に聞こえてくる質問にただ答えるだけである。わか
らないことがあっても聞き返すことすらできない。そういった意味で、この方法は実際のコミュ
ニケーションの場面とは違った能力を測ることになりかねない。

それでは、どのような実技テストが考えられるのだろうか。テストとしていかに精密であって
も実施が困難であっては採用することはできない。欲張りな話だが、良質なテストを簡単に行う
方法はないものだろうか。工夫すれば可能である。実施する際のヒントは、「ケンブリッジ英検
Pre-PET」の面接方法に求められる。

(2) テストの実施方法 (久保野雅史 (1993))

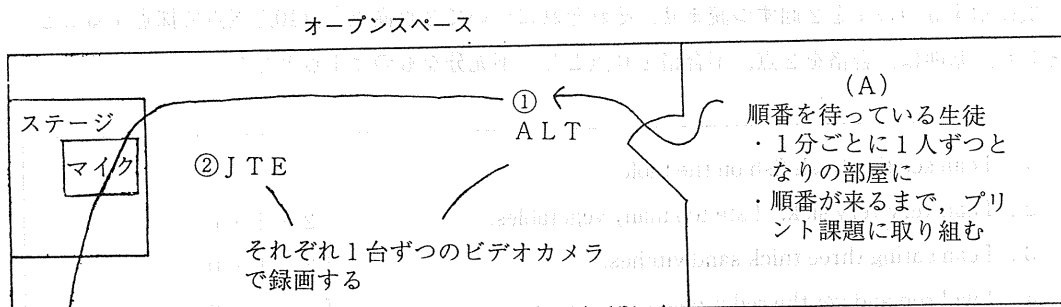
実技テストを作成する際に、次の2点を考慮した。

1. 1クラス(40人)のテストを、1時間で行えないものか。
2. ALT(外国人教師)を活用できないものか。

前述の「ケンブリッジ英検方式」を応用する。

(a) 50分間で40人の生徒に1人1分間のテストを2種類実施する。

理想的には、2人の教師(面接官)と3つの教室が必要となるが、本校の7号館3階にあるオ
ープンスペース(大教室1, 普通教室1)で充分代用可能である。普通教室を受験者が待機する
部屋に於て、大教室は面接会場として用いることになる。待機室から出た生徒は、①ALT②J
TEの順で、それぞれ1分間の面接テストを受けることになる。



終了後は、教室にもどり課題を仕上げる。待機部屋にはもどらない。

(b) 実施上の留意点

実技テスト(ここではスピーキングの面接テスト)は、実施に相当手間がかかる。この難しさを克服するためのアイデアを紹介する。

- ① 1分ごとにチャイムを録音したテープを用意する。このテープを再生し、チャイムが鳴るごとに1人ずつ名簿順に面接会場に移動するよう指示しておけばよい。受験者誘導係が不要となる。このアイデアは、根岸（1993）でも紹介されている。
- ② 待機中の生徒にはプリント課題を与える。終了後に日直が回収して提出するように指示しておく。期末テスト対策の復習問題のプリントを作り、これにあてる。
- ③ ALT, JTEそれぞれの面接の様子をビデオカメラを用いて録画しておく。この目的については、具体例、採点方法の所で詳しく述べる。

(3) テストの内容

1992年度の各学期末に実施した内容は、次の通りである。この実践は、久保野りえ（1993）でも紹介されている。

	ALT	JTE
1学期	あいさつ、自己紹介	英検3級面接カードの音読
2学期	発音チェック（資料1）	教科書の音読——look up and say —— (Let's Read 2 Australia ①)
3学期	対話——look up and say —— (Let's Read 3 Wilbur)	教科書の暗誦（資料2） (Lesson 8 Let's Talk about Languages)

（資料1）

2学期のティーム・ティーチングの時間に重点的に指導した発音（f, v, th, r, l）が、正しく調音できるかどうかを母語話者の耳で判定することを目的とした。

次に示す5つの文を2回ずつ読ませ、それぞれについて2点満点、計10点満点で採点することとした。基準は、合格を2点、不合格を0点とし、不十分なものは1点とした。

1. I can see five fresh fish on the table.	
2. I can very very sick. I ate too many vegetables.	[2・1・0]
3. I can eating three thick sandwiches.	[2・1・0]
4. I will run and get the red rope.	[2・1・0]
5. I can see a long long ladder.	[2・1・0]

生徒が読み上げるプリントには、すべての文に内容を表すイラストがつけられ、理解を助けるように工夫されている。

(資料2)

3学期末に行う実技テストの内容は、すべて右に示すように公開した。Heaton (1988) でも指摘してあるように、このタイプのテストの波及効果 (backwash effect) は絶大である。生徒はテストに備えて音読練習を必ず行うようになる。また、日常の授業における音読でも、真剣さが違って来る。

「テストに出す」と、おどして練習させるのが目的ではない。テストをわざわざ実施することによって、それほどまでに大切な活動なのだ、ということを知らせるためでもある。

また、テスト範囲を知らせる時には、評価基準 (testing point) についても、触れておいた方が良い。練習する際の方向性がはっきりする。教科書を見てよいか、なども生徒には気になる所である。ここにも言及すべきである。

教科書 (Lesson 8) の暗誦について

丸暗記は要求しない。内容を記憶する負担は軽減すべきである。現実のスピーチの場面を考えてみたい。文言を一字一句間違えないように暗記して話す必要があるだろうか。そんなことはない。内容のポイントをメモした紙 (palm card) を手に持ち、時々、それを見ながら話すことがほとんどである。暗誦の指導もそれで充分である。さらに言うと、丸暗記の場合は、内容でなく言語形式のみを記憶して再生してしまう恐れがある。Fanselow (1992) も指摘しているように、このような方法をいくら繰り返しても、頭に浮かんだ内容を言葉にして話す能力とは必ずしも結びつかない恐れがある。

以上のことを念頭に置き、暗誦させる「環境作り」を工夫した、内容を具体的に示す。

(a) 場面を設定する。

ここでは、NHK教育テレビの講師という役割を設定した。カメラ目線で話す必然性を作るためでもある。ただ「顔を上げて言え」と指示しただけでは、どこに目を向けて良いかわからないからである。

(b) マイクの活用

「大きな声で」言え、というよりは、「はっきりと」言え、と指示すべきである。マイクを通すと、いかげんに誤魔化した発音は出来なくなる。また、マイクに向かって話すためには、当然、顔を上げなければならない。

マイクやビデオカメラは、場面を演出するための、小道具だと考えれば良い。

(c) 移動式ホワイトボードの活用

内容のメモを手につくと、どうしても見る時には下を向いてしまうことが多い。どうすれば解決できるのか。以下の内容を板書した移動ホワイトボードを、生徒の右側に置いておくとうまい。板書事項は、本文の1行を1コラムに対応させる、という約束をしておく。

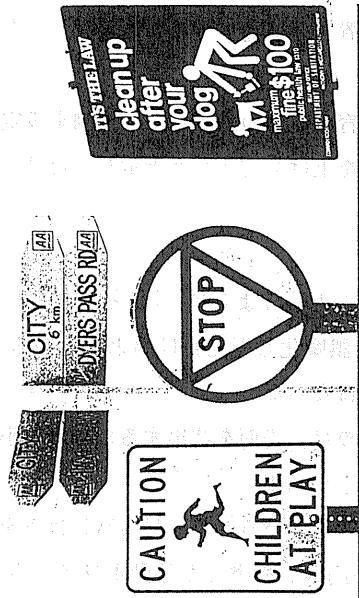
LESSON 8

Let's Talk about Languages



English is a very important language today. It's spoken in the United States, the United Kingdom, Canada, Australia, and New Zealand. In Japan and many other countries it's taught at school as a foreign language.

English is very useful when people from different countries need to talk with each other.



English is spoken in Australia.

spoken [spəʊkən] < speak the United Kingdom [ðə ju:ni'taɪnd kɪŋdəm]
 Canada [kænədə] New Zealand [nju:zɪl'ænd] taught [tɔ:t] < teach
 useful [ju:slf] need* [ni:d] each* [i:tʃ] each other

2/18(木)

学習期・定休リスト

日時 2月22日(月)

2. 場所 オープンスペース
 (小森さんの部屋に 番号順に着席、一人ずつ机の部屋に出る。1分ごとに)

3. 内容

(1) Mrs. Peterson
 "HORIZON p.57 の dialog, Fernan's
 一ト 相手の顔を見て話すことのポイント。
 教科書は持っている。いい。

(2) Mr. Kubano
 "HORIZON p.68 の 内容のスピーチ。聴
 衆(実際はビデオカメラ)の方を見て話す。
 教科書は見えてはいけず。 (7:30)。key
 words は板書してあるので、それを利用(今
 からレクチャー風に話すといい)

★モジュール録音終了。2/19(金) (LL)は
 必ずおしゃべりテープを持って来ると。

important	U.S.	Jaoan + x	
	U.K.	school	
	Canada		
	Australia		
	N.Z.		

生徒は、メモを持って来る必要はない。(この場合は持って来させない。)内容のメモは顔を少し右に向ければ、ホワイトボードに大きな字で書いてあるからである。

(4) 採点方法

評価基準は、原則としてA, B, C, Dの4段階とし、それを、各々5, 4, 3, 2点に換算した。ALTとJTEの2人が各自で採点するので、最高点は、10点(5+5)となる。基準は、Heaton (1988)でも指摘しているように、偶数の段階が良い。奇数(例えば5段階)にすると、真ん中の3に評価が集中しがちだからである。

評価をする際のポイントはあまり精密に、また多くすべきではない。もちろん、スピーキングの能力は様々な観点から測らなければならない。しかし、それを1度に行うのは無理がある。今回はイントネーションを中心に、次回はリズムを中心に、というように、中心となる観点をはっきりさせておけば、採点はそれほど困難ではない。

精密なテストを、年にほんの数回実施するのも一つの考えではある。しかし、ここでは、少々精度が落ちるテストであっても、なるべく多く実施する方が良い、という立場を取る。口頭発表能力の評価については、ACTFL (American Council on the Teaching of Foreign Languages)の開発したOPI (Oral Proficiency Interview)の尺度が参考になる。ACTFLでは、Oral Proficiency Testerを養成し、資格の認定も行っている。

採点する際に注意すべきことがある。Hughes (1989)でも指摘しているように、生徒が目の前で話している時には、決して鉛筆を動かしてはいけない。という事である。途中で試験官が何か書くと、受験者はプレッシャーを感じるからである。ビデオカメラを用いるのは、採点は、後でテープを再生しながら行う、と信じさせるためである。場合によっては、評価に悩んで再生することもあるが、原則としてその場で採点している。ただし、生徒にはそれを気づかせないように気をつけている。生徒の情意フィルター (affective filter) を上げないための工夫である。

以上のテストで得た結果は、指導要録に記載する四つの観点のうち「表現の能力」を評価する際の資料として活用できる。

2. 2. 2. NHKスキット・コンテストへの取り組み

平成4年度のコンテストの「基礎英語部門」に、中学2年生全員で取り組んだ。

コンテストの内容は、課題スキット（資料3）と、自由スキットから構成されている。

募集要項が届いたのは6月。夏休み前から取り組みを開始した。

(1) 指導計画

(a) 課題スキット

East West Center(Hawaii)のRichard Viaが考案したTalk and Listen Cardの手法を利用した。この方法は、元来、ブロードウェイのミュージカルのリハーサルのために用いられたものである。

台本を手に持ったまま、お互いに読み上げていたのでは、仲々台詞はおぼえられない。また、相手が話している時も、それを聞かずに、自分の次の台詞に目をやってしまうことがある。この問題点を解消するには、練習用の台本をもう1部配り、ある加工をさせると良い。簡単なことである。自分の台詞以外の行を全て、油性マジック等で塗りつぶしてしまえば良い。

こうなると、相手の言葉を聞いていないと、自分がどこで話して良いのかわからなくなる。自

基礎英語部門「課題スキット」

(Winter Vacation)

Atsumi: Do you have any plans for the winter vacation, Lori?

Lori: Yeah, I'm going to Okinawa.

Tetsuo: Great! What are you going to do?

Lori: I'm visiting some friends. And we're going to play a lot of sports.

How about you, Tetsuo?

Tetsuo: I'm going to spend my whole vacation in New York City.

Atsumi: Wow. That's nice.

Are you going to see any musicals?

Tetsuo: Yes. *Cats* and *The Phantom of the Opera*.

Lori: Oh, I want to see those shows.

Tetsuo: I'm also going to visit some museums and the U.N.

Lori: Oh, really?

How about you, Atsumi? What are you going to do?

Atsumi: I'm going skiing in Nagano.

Tetsuo: You're a good skier, I bet.

Atsumi: No, just a beginner.

But I hope to improve a lot during the vacation.

Lori: Well, guys, enjoy your vacation!

A&T: You, too!

※実演者が男子の場合、AtsumiをMitsuoに、LoriをSteveに置きかえてください。また、実演者が女子の場合、TetsuoをAkikoに置きかえてください。

然と、相手の顔を見て、注意深く聞くようになる。自分が言う番になったならば、相手の顔を見て語りかけるようにする。この時に、台本に目を向けたまま読み上げるだけで終わってはいけない。途中でつかえてもよい。言葉を口に出す時には、必ず文字から目を離す訓練が大切である。相手や自分が話していない時しか、台本を見てはいけないのである。

夏休み前に全てのグループに実演をさせ、ビデオに収録した。1グループ3人なので、各クラスで、14のグループができる。手際良く進めれば、50分間で14のグループに演じさせることは不可能ではない。あらかじめ、順番を指定し、次のグループはステージ脇で待機しているように指示するだけでよい。

(b) 自由スキット

スキット（寸劇）と、単なるダイアログ（対話）は違う。スキットには、何らかのひねりや落ちがなければならぬ。しかし、面白い話しを作ろうとすればするほど、日本語でまず書いて、それを英訳してしまうことになりかねない。それを避けるために、伊藤（1987）の提唱する Plus-one dialog の手法を用いた。指導の手順は次の通りである。

- ① 各グループに、コア（核）になる短い dialog を選ばせる。各社の教科書、NHK のテキスト等から選ばせると良い。
- ② ① で選んだ物に少しだけ手を加えた物を作らせ、発表させる。plus-one の内容は、たった1話や1文であってもかまわない。この活動を成功させるには、ふだんから、教科書の対話を発展させる機会を数多く与えておく必要がある。
- ③ J T E, A L T, 他のグループにコメントを書いてもらう。
- ④ ③ を参考に、スキットに発展させる。この作業は家庭学習にせず、1時間とって授業中に行うと良い。J T E, A L T は机間巡視しながら質問に答えたり、アドバイスを与える。仕上がったグループは演技指導を受けても良い。
- ⑤ グループごとに再度発表させる。他のグループは、聞いていて理解できなかった箇所を指摘する。こうすることによって、難しい語句の乱発を防ぐことができる。
- ⑥ 完成した台本を提出し、J T E, A L T の添削をうける。
- ⑦ NHK に提出するテープに吹き込むまで、各グループで放課後等に練習させる。生徒が希望すれば、個別に指導する。吹き込む直前の授業で最終発表を行い、ビデオに収録する。良く出来たものは、次年度の生徒に手本として示すことができる。

(2) 実施上の留意点

各クラス14グループ、3クラス合計で42グループを参加させたので、学校から一括して提出した。その際、混乱を避けるために次のことに留意した。

(a) カセットテープは一括購入し、吹き込みの直前に配布する。

(b) 必要書類の記入は、授業で一斉に行う。カセットテープのラベル作り等に必要な文房具

平成4年度「NHK中学生英語スキット・コンテスト」入賞作品

獲獎者総覧

- ◎ 最優秀賞
桐蔭学園中学校女子部 (神奈川県)
指導 吉嶺 真美子先生
石井 純子 鳴沢 佑里子
2年 天野 みすず
- ◎ 優秀賞
女子聖学院中学校 (東京)
指導 山下 ルミ子先生
尾崎 摩耶 佐々木 倫奈 土山 香苗
2年 尾崎 摩耶 佐々木 倫奈 土山 香苗
福岡県福岡市立百道中学校
指導 有路 知恵 三子 作田 高志
1年 有路 知恵
- ◎ 優良賞
千葉県千葉市立糟橋中学校
指導 石川 正寛先生
2年 小池 久美子 岡 紀子 牧 純子
千葉県流山市立南部中学校
指導 吉田 美代子 早百合先生
2年 麻衣子 植木 深港 美恵子
筑波大学附属駒場中学校 (東京)
指導 久保野 雅史先生
2年 後藤 啓太 平井 秀幸 清水 隆之
- ◎ 努力賞
秋田大学教育学部附属中学校 (秋田)
指導 山田 直明先生
1年 北林 健児 鎌田 重光 美穂子
加藤学園暁秀中学校 (静岡)
指導 加藤 千恵美先生
2年 吉山 泰樹 雪野 大樹 藤沢 昌平

賞状

筑波大学附属駒場中学校二年

後藤 啓太 殿
平井 秀幸 殿
清水 隆之 殿

あなたがたの作品は平成四年度「NHK中学生英語スキット・コンテスト」基礎英語部門において

優良賞となりました

よってここに賞状を贈りその栄誉をたたえます

平成五年一月十日

日本放送協会

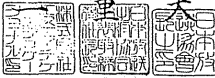
会長 川口 幹夫

日本放送出版協会

代表取締役社長 尾西 清重

NHKエデュケーショナル

代表取締役社長 市村 純



(はさみ、のり等)は、教師側で用意し、貸し出す。

(c) 終わったグループから、書類の点検を受け、テープとセットにして輪ゴムでとめ、用意した段ボール箱に入れる。授業の最後15分間を、こういった作業にあてることによって、教師の点検・確認作業や、提出もれの心配はなくなる。

(3) コンテストの結果

一つのグループが入賞を果たした。最優秀賞、優秀賞(×2)に次ぐ優良賞、堂々の全国第4位である。(参加作品数は、全国で486編)NHKからは、賞状の他に楯、メダル、賞品が送られた。

2. 2. 3. 「他流試合の奨励」

生徒の意欲をかきたてるためにも、様々なコンテストや検定試験を紹介してみると良い。中学2年生には、NHKの主催する「英語リスニングテスト中級」に参加し、優秀な成績を収めた。

英検(STEP)の他にも色々と検定試験はある。国連英検(UNATE)や、ケンブリッジ英検も、積極的に受けるように指導してはどうだろうか。

2. 2. 4. 参考文献

Cambridge-Kenkyusha英検Pre-PET・Syllabus for Part I & Part II

Fanselow, John F.(1992) *Try the Opposite*, The Simul Press.

Heaton, J.B.(1988) *Writing English Language, Tests* Longman

樋口忠彦・菅正隆(1993)「オーラル・コミュニケーション——テストと評価」『現代英語教育』1993年12月号、研究社出版

Hughes, Arthur(1989) *Testing for Language Teachers*, Cambridge University Press.

伊藤雄二(1987)「対話教材を用いた英語の学習意欲を高める指導」『研究集録'87』東京学芸大学附属竹早中学校

小泉仁(1985)「英語I, IIにおける『話す力』の評価について」『英語教育研究』Vol. 1, (財)語学教育研究所

久保野雅史(1993)「スピーキング能力を評価するためのLL教室の利用」『LLA関東支部・1993年度第1回研究大会』口頭発表

久保野りえ(1993)「AETと行う実技テスト」『英語教育』1993年2月号、開隆堂

根岸雅史(1993)『テストの作り方』研究社出版

若林俊輔・根岸雅史(1993)『無責任なテストが「落ちこぼれ」を作る』大修館書店

2. 3. 中学3年生(44期生)

「より深い国際理解を求めて」

——思考する素材を英語で与え、思考したものを英語で表現させる過程を通して中高一貫教育における知的レベルに応じたオーラル・コミュニケーションの能力の育成を目指して——

2. 3. 1. 授業の目標

物事の事象の背後にかくれた背景を探りながらより深い国際理解の観点を与える。

2. 3. 2. 内容

New Horizon Book 3. Let's Read 3. Switzerland.

2. 3. 3. 手順

Let's Read 3. Opinions of Teenagers from Abroad.

この課は、A Girl from Beijing, China. A Boy from West Germany. A Girl from Switzerland.の3人のForeign teen-agersの手記からなっている。

Germanyの所が、West Germanyと標記されているように、日本の教科書が移り行く世界の速度に追いついていない一端がうかがわれる。

研究授業の対象として特に実践研究を深めたSwitzerlandについても、教科書に記述されている事は、①スイスに於いては、German, French, Italian and Romanshの4つの言語が使われていると言うこと、②スイスでは婦人参政権が与えられたのは1971年であること、③日本人観光客がグループでかつ大急ぎで旅行してしまうこと等が書かれていた。

これらはいづれも事実で、スイスを理解するのに欠く事の出来ない事実であるが、何故、スイスに於いて婦人参政権の付与が遅れたのかとか、いわば“連合”国家としてのスイスが何故、何の目的で存在するに到ったのか等のことについては、教科書では語数や時間数の制限のために全く触れられていない。

しかし、日本の中学生がスイスを理解するには、単に観光の表面的事実ではなく、何等かの本質的なものに触れなければ、永続的な意味を持った教育にはならないのでは無いかと考えた。

そして、'92年度、研究授業のテーマとして、スイスの中立政策の今後を考えることにした。

つまり、スイスが国際連合の下部機関であるUNESCO等には加盟していても、何故国際連合そのものには加盟しないのか。スイスとECの関係はどうなるのか。スイスがECに加入した場合に、スイスが直面する問題は何か云々のことについて、英語で問いかけながら、英語で答えさせるようにした。

もちろん、このように、かなりレベルの高い授業であるから、全く準備なしにこの授業が出来る訳ではない。

準備としては次のような事を行った。

- ①夏休みの宿題として、学生にスイスについてのReading materialを与えた。これについては、student's levelに応じたup-to-dateなmaterialが殆んど無いことが判った。使用したものとしては、学校の図書館にあるChildren's Encyclopedia, Merit Encyclopedia, スイス大使館文化広報部からもらった日本語の資料等であった。これらを印刷して、夏休前に学生に与えた。
- ②学生は、夏休み明けに、何でも良いからスイスに関する事実を一人5つ、英文で書いて提出させるようにした。一人5つの事実が、かりに与えられた資料を参考とするにしても、120人分集まるのであるから、(i)には、学生のスイスに対するイメージの集約が見られるし、(ii)には、結構、教員が知らない新しい事実も書いてくる。

教科書等の教材で、いきなり難しい英文を多量に学生に与えると学生側の心理的反発を食うが、今回は学生側が提示して来た英文であるので、文句を言いながらも、結構、全員で良く学んだように思う。

これらの学生が提出した英文を分類、整理し、語法等の誤りを直して、スイスについての英文集を作ってしまった。

そして、これを重要なmaterial for discussionとして授業を展開した。

当然のことながら、Switzerland is a neutral nation.とか、Switzerland has kept the policy of neutrality.云々と言った中立政策に関する英文も多かった。

これと同じ方法をGermanyとChinaについても行った。

2. 3. 4. 評価

物事の事象の本質を問うようなことを授業の対象としたので、単なる記憶力のテストでは評価が不可能であるので、論述による問題とした。従って、評価は点数法によらず、評定の重要資料としてA B Cの3ランク位にした。

2. 3. 5. 問題点

(1) 学生に与えることの出来るeasy to read and up-to-dateなmaterialが、非常に少ないか又は皆無とも言える。従って、私達、英語教育に携わる者が、何等かの努力を払い、中学校の教科書で扱う様々な分野についてeasy to read and up-to-dateなEnglish materialを整備する必要がある。

(2) どうしても、日本人同志でのcommunicationになるので、機会があれば、A E T等のclassroom participationをお願いして、修得した英語力が本当に使えるように実践の場を提供してやるのが望ましい。

(3) A E Tのparticipationがいつも得られない場合には、外国の学校の生徒達との手紙による交換により、実際に学んだ英語が使えるようにしむけると良いと思う。

2. 4. 高校1年生 (43期生)

英語の授業が週4時間、内1時間はチームティーチング、他の3時間は教科書中心の授業に当て、両方を要領よく関連づけて授業を進めるよう心がけた。

教科書は終わらせることに目標があるのでなく、教科書の内容をきっかけとして、生徒が積極的に、聞き、話し、読み、書くことにより、生徒のコミュニケーション能力を高めていくことにある。教科書の内容を発展的にまた生きたものにするので、生徒に学習するうえでの動機づけを与える。コミュニケーション能力を高めるための発展的な補助教材の作成にあたって、下記のような観点から教材検討をした。またAETとのチームティーチングで教科書の内容をコミュニケーションに展開するための教材も合わせて検討したので、以下実際に教科書と関連させた補助教材利用の実践を紹介したい。

次の観点を考慮にいれ教材作成を行った。

- 1 Authentic Materials (本物を扱っている教材)
- 2 知的好奇心のある程度満足させるような教材
- 3 楽しんで英語を習得していける教材
- 4 情緒面を育てるような教材／推測力を養うような教材

2. 4. 1. Authentic Materials (本物を扱っている教材)

教科書は既習文法、語彙などを考慮して1課から順に学習していくように構成されているのであろうが、内容によっては課の順序通りでなくても、その時の社会問題、時事問題と関連させることによって、教科書の内容を生きたものとして、生徒に提示することができる。課と関連させた実際の新聞記事などは、まさにAuthentic Materialsとなるのである。CROWN英語Iでは、全体の3分の1が社会問題を考えさせるような内容になっているので、現実のニュースを効果的に利用することで、生徒の興味を喚起することができた。実際に授業で扱った課とその補足教材の実例を以下に述べたい。

(1) 4課 APARTHEID「アパルトヘイト」

4課の「アパルトヘイト」は、南アフリカ共和国の人種差別問題について考えさせるレッスンである。この課を扱っている時に、南アフリカ共和国大統領のDe Klerkが日本を訪問していたので(1992年6月)、効果的な動機づけを与えることができた。大統領のインタビューを生徒に聞かせることで、生徒もレッスンを新鮮なものとしてとらえることができたようである。またネルソン・マンデラ氏解放当時の様子や彼の演説を載せた記事やビデオを見せることによってアパルトヘイトの問題に対して認識を新たにしようである。

課のテーマとの関連教材として下記の内容を提示した。

A) ビデオ教材の利用 (日本語・英語両方で聞かせる。)

- ーアパルトヘイトの簡単な歴史
- ー来日中の南アフリカ共和国大統領のインタビュー
- ーネルソン・マンデラ投獄までの経緯

B) 英字新聞の活用 (AETとの授業で)

De Klerkの訪日のニュースと前後して、ロサンジェルス暴動があった。AETとの授業では、JAPAN TIMES, STUDENT TIMESなどの実際の記事を利用し、現状を把握させ、AETの意見交換も行い実状をとらえさせた。生徒はこの事件で実際に学習している課のテーマの重大さを改めて認識したようである。

- ーロサンジェルス暴動 (資料1参考)
- ーネルソン・マンデラ釈放当時の記事
- ーデ・クラーク訪日 (資料2参考)

(2) 3課 GLASSLANDS IN DANGER

3課の「GLASSLANDS IN DANGER」は緑草地、農地の砂漠化を扱ったレッスンである。この課の学習と前後して、Earth Summitがブラジルで開催されていた。Summitで協議された問題点に注目し、地球の環境問題を考えさせるよい機会となった。同じ内容のものを、NEWSWEEKの雑誌と日本の新聞記事との両方から並列させて生徒に提示したので、環境保護に関する語彙、表現にもなれたようである。

課のテーマとの関連教材として下記の内容を提示した

- ーブラジルで開催されたEARTH SUMMITの協議事項とその決定 (NEWS WEEK)

2. 4. 2. 知的好奇心をある程度満足させるような教材

(1) 自伝物

教科書では3課にわたり、自伝を取り上げ、アルバート・アインシュタイン、ピカソ、マザー・テレサの3人の功績について語られている。

(a) 10課 ALBERT EINSTEIN「アルバート・アインシュタイン」

教科書ではアインシュタインの生涯を通じてのエピソードが紹介されている。この内容を印象的な映像で制作した番組がNHKで放映された「アインシュタイン物語」である。生徒にはそのシリーズの1話をビデオで見せた。番組そのものは、日本語で放送されており、英語学習に直接の関連を持たないが、アインシュタインの相対性理論をわかりやすく説明しているの、生徒の知的好奇心を満足させることができた。

教科書の内容に関連している部分を、英語百科辞典や科学雑誌「ニュートン」のアインシュタイン特集の一部から抜き出し、プリントして配布した。

(b) 9 課 THE YOUNGEST PAINTER IN THE WORLD

ピカソの画家としての生涯が描かれているが、主に彼の画風の変化をテーマとしている。教科書に出てくるピカソの作品を、実際の画集やビデオで見せることによって、ピカソの特徴を表す「青の時代」などということばを具体的にとらえさせることができた。またNHK放映の「日曜美術館」で取り上げられたピカソの作品紹介を5分ほど見せながら、教科書で触れている内容を英語で質問した。実際の絵を鑑賞しながらの英問英答なので生徒も実感を持って教師との対話をすすめることができた。

(C) SUPPLEMENTARY READING THE STORY OF MOTHER TERESA (資料3 参考)

ノーベル平和賞を受賞したマザー・テレサの献身的な活動振りを描いた内容であるが、他の多くの教科書でも同様の内容が取り上げられている。マザー・テレサが来日した際のスピーチを補助教材とすることで、彼女の存在を実感し、彼女の哲学をよりよく理解できたようである。

(2) 科学的な物

(a) 7 課 REPTILES OF LONG AGO

恐竜絶滅の理由について紹介しているレッスンである。紙数制限もあるが、簡単な内容になっているので、やや詳しく理由をあげている他社の教科書(DID THE DINOSAURS SEE NEMESIS)で補助教材をつくり提示した。またAETの授業で、恐竜絶滅の理由を載せているJAPAN TIMESの記事を利用し、オーラルとリーディング両方の面から内容理解を強化した。(資料4 参考)

(b) 11 課 OUR PICTURE OF THE UNIVERSE

ホーキングの理論にまつわるエピソードが主の内容である。氏に関しては、多くの教科書や副教材で取り上げられており、授業でもその一部を紹介した。課にはいる前にAETとの授業で、ホーキングの生涯について学習をし、内容理解のチェックを行った。

2. 4. 3. 楽しんで英語を習得している教材

小説が映画化されている内容の課では、実際の映画を教材として利用できるもので、生徒には、楽しんで授業が受けられる機会を与えることができた。

(1) 5 課 THE WIZARD OF OZ 「オズの魔法使い」

5 課の「オズの魔法使い」を学習する前にジュディー・ガーランド主演の映画を見せた。教科書で扱っている場面は、映画のごく一部なのでその場面だけ再度見せまた登場人物のセリフがほ

は教科書と同じ文に関しては、何回かREPLAYし、発音練習などもさせた。

(2) 8課 HART OF BURMA「ビルマの豎琴」

映画で扱っている部分と、教科書でとりあげた場面がややずれているが、映画を通して小説全体を把握することができたので、生徒にとってレッスンの内容理解は容易であったようである。また教科書に出ている場面を原作の日本語の作品と対照させて読ませた。この練習で、日本語・英語の表現の違いなどに興味を持つ生徒もおり、作文の練習も兼ねることができた。

2. 4. 4. 情緒面を育てるような教材／推測力を養うような教材

(1) 文学作品を扱うことにより、感動を与えるような作品を通して情緒面を育てることが出来る。ただ単に作品の字面だけ読んで読んだことにはならない。人々の感情の動き、表現、また場面・状況などを正確に把握をするためにも英語の力はもちろんのこと、推測力が必要となる。

小説、文学作品などは自分で読むではじめて読んだということになるが、英語で文学作品を味わうといっても高校生の英語力に限界はある。興味を引き出し、後で自分で続きを読んでみたいという気持ちを生徒に起こさせることができれば、この学習の目的は達成されたと考えてよい。

教科書(CROWN I)では、3-4篇の読み物を載せているが、有名な作家の作品は、限られていたので、サイド・リーダーなどで読む機会を設けた。これらの作品をAETとの授業でとりあげ、内容理解の補助になるよう授業展開を行った。(資料5参考)

(2) AETとの授業での展開

- 1 AETが黒板に絵や略図を描いてSTORYの概略を語る。
- 2 AETがCOMMIC STYLE SHEET(漫画仕立ての粗筋)で内容を読む。
- 3 J TがSTORYにでている語句、表現の説明をする。
- 4 AETが内容に関するQUESTIONS and ANSWERをする。
- 5 AET/J T両者が内容に関しての簡単な感想を述べあう。

(3) 年間通して読んだREADING教材

(a) 他社の教科書からのREADING教材

YELLOW HANDKERCHIEFS

ENOCH ARDEN

THE SNOW GOOSE

MABEL(MAUGHAM)

AFTER TWENTY YEARS(OH HENRY)

PANDORA'S BOX

(b) 市販のREADING教材

1. BRITISH AND AMERICAN SHORT STORIES

I SEE YOU NEVER

A SPECIAL OCCASION

THE USE OF FORCE

SPY

2. THREE OUTSTANDING DETECTIVE STORIES

2. 4. 5. 結論

教科書を使用して効果的にレッスンを展開するためにも補助教材の工夫が重要なカギとなる。今日では情報が発達しており、いつでもビデオ・書籍が入手可能なので、補助教材になる材料の確保にはこと欠かない。教材作成の際に考慮した観点を念頭におき、生徒に動機づけを与えたり、興味を持たせる様々な工夫をすることによって、生徒からの反応は確かなものになる。このことが最終的には、コミュニケーション能力を高めるステップにつながるのである。

<資料1>

- (Racial Segregation)
- ① What is apartheid? Apartheid is separating black people from white people. The black people live in different places to the white people. Apartheid is mainly found in South Africa. Blacks go to "black" schools, "black" hospitals, "black" shops etc.
 - ② Is there apartheid in USA? No there isn't.
 - ③ What is a riot? A riot is tumult and disorder (not obeying laws)
 - ④ What started a riot in America? A black man was beaten up by white police^{-men}. A court case was held. The white policemen were not guilty, set free, acquitted.
 - ⑤ What damage did they do in the riot? They looted, lit fires, bashed people, and shot people.
 - ⑥ Why did the people riot? They were angry.
 - ⑦ Why were they angry? They want to live a better life and are not happy. They are angry because they are poor. They felt the white policemen were guilty. They felt the laws are not fair. (racist laws)
 - ⑧ What were the results of the riots? -55 deaths 24,000 injured 2,000 arrests -billion of dollars in damages.

Black leaders are irate over King trial verdict

20

LOS ANGELES (AP) Black leaders reacted angrily Wednesday to the acquittal of four white policemen in the videotaped beating of a black motorist and pleaded with residents to remain calm even as scattered violence erupted.

"The jury's verdict will never outlive the images of the savage beating," said Mayor Tom Bradley, who is black.

He traveled to a church in south-central Los Angeles and pleaded with angry black citizens in the area to refrain from violence after the officers were acquitted in the March 3, 1991 beating of Rodney King.

The beating was captured on videotape by an amateur photographer and showed of-



Rodney King

icers delivering multiple blows with batons to King after he was detained after a car chase.

In the worst outbreak of vio-

lence, an intersection in pre-dominantly black south-central Los Angeles was plunged into chaos, with looters running free and motorists pulled from cars and attacked. Police and paramedics were ordered to steer clear.

As night fell, fires burned in several stores, cars and buses were hit by rocks and one man was beaten and knocked to the ground by a stone-throwing crowd.

Black leaders from around the country denounced the verdict.

Congressman John Conyers, a senior member of the Congressional Black Caucus, asked Attorney General William P. Barr to launch a federal criminal civil rights investigation.



DEFENDANTS IN THE MARCH 1991 videotaped beating of black motorist Rodney King are shown in 1992 file photos during the course of their trial. The four Los Angeles police officers are (from left) Timothy Wind, Stacey Koon, Theodore Brisano and Laurence Powell. AP PHOTO



A MAN IS ATTACKED near Florence and Normandy streets in Los Angeles on Friday after rioting broke out shortly after the announcement of not-guilty verdicts in the Rodney King beating trial. REUTERS PHOTO

LE KLERK

- ① Which important man arrived in Japan recently? (Mr De Klerk.)
重要な人物が最近日本に到着した。 (Mr De Klerk.)
- ② Is Japan friendly towards South Africa? (Now Japan is friendly with Africa.)
日本は南アフリカに対して友好的か? (今日本はアフリカと友好的だ。)
- ③ When did the diplomatic relations start again? (January 92)
外交関係がいつ再開されたか? (1992年1月)
- ④ What does De Klerk want Japan to do? (Make more investments to SA.)
De Klerkは日本に何を求めているか? (南アフリカにさらなる投資を促している。)
- ⑤ Which part of Africa may have a big famine? (Southern part.)
アフリカのどの地域が大飢饉が起きる可能性があるか? (南部地域。)
- ⑥ Is Japan going to give emergency food assistance to Africa? (Yes.)
日本は緊急食糧援助をアフリカに提供するか? (はい。)
- ⑦ Why must Africa open up its roads and ports? (For food deliveries to quickly reach famine areas.)
アフリカが道路と港を開く必要がある理由は何ですか? (食糧を飢饉地域に迅速に届かせるため。)

- ⑧A) What will improve if Africa agrees to an International Society in extending humanitarian aid to hard brought stricken regions? (bilateral relation)
人道援助を困難な地域に提供することで何が改善されるか? (二国間関係)
- ⑧B) Were full diplomatic ties renewed between Japan and South Africa? (yes they were)
日本と南アフリカの間で完全な外交関係が再開されたか? (はい、再開されました。)
- ⑧C) Are De Klerk's reforms dismantling Apartheid? (Yes)
De Klerkの改革はアパルトヘイトを撤廃しているか? (はい。)
- ⑧D) What is Apartheid? (living apart - segregated)
アパルトヘイトとは何ですか? (別居 - 隔離)
- ⑨) What other result came of their meeting? (proposed charter flights)
彼らの会談で他にどのような結果がもたらされたか? (チャーターフライトの提案)

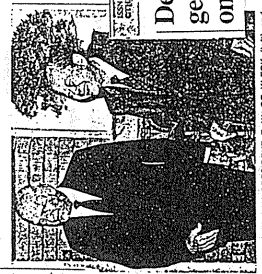
De Klerk Renews Bonds Of Friendship, Growth

By Norma Brouder
Announcing a new era of strong international relations, South African President F.W. de Klerk said Friday that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.



De Klerk said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

Thursday, June 4, 1992



De Klerk gets pledge on growth

South African President F.W. de Klerk (left) and Japanese Prime Minister Fumio Miyazawa (right) are seen in conversation during their meeting in Tokyo. De Klerk is seen gesturing while speaking.

New Hopes For South Africa

South African President F.W. de Klerk said Friday that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

De Klerk said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

De Klerk said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

De Klerk said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

De Klerk said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development. He said that his country had opened its doors to a new era of economic growth and development.

4/1 to 2 4511
 母テレサ Part 1
 Mother Teresa . pt 2

Mother Teresa Part 1

- ① Mother Teresa was travelling on _____ when God _____.
- ② God told Mother Teresa that _____.
- ③ Before Mother Teresa could serve the poor, she had to _____.
- ④ Mother Teresa always travelled _____ She wore a _____.
- ⑤ She was trained by some _____ because she needed _____.
- ⑥ She taught children how to ① _____ ② _____ ③ _____.
- ⑦ Mother Teresa trained poor _____ who chose to _____.
- ⑧ In 1952 she opened her first _____.
- ⑨ The First Home for the Dying was an old vacant _____.
- ⑩ Mother Teresa was awarded the _____.

- A _____
 Para. Where do the poor people of Calcutta die?
 One. _____
- B. _____
 Para. What do the poor people of Calcutta do when they have no jobs or homes?
 One. _____
- C. _____
 Para. Who paid attention to Mother Teresa and the work she was doing?
 One. _____
- D. _____
 Para. Who did she see in every person?
 One. _____
- E. _____
 Para. How old was Mother Teresa when she first felt a wish to help the "poor"?
 One. _____
- F. _____
 Para. Why was her decision to help the "Poor" a difficult decision to make?
 One. _____
- G. _____
 Para. At first, she was not really helping the "Poor". What was she sent to do?
 One. _____



① Mother Teresa was travelling on a train. God spoke to her.

② God told her that she should give up every thing. She should follow God into the streets. She should serve the "poor" people.



③ At last she got the Church permission. She then set out to help the "poor". She travelled alone. She wore a white sari and a cross.

④ I wish to leave the position of a Catholic Nun.



⑤ Mother Teresa had to get the church's permission to leave the Catholic church.



⑥ She was trained by some American nursing nuns. She needed some skills so that she could enter the poor people's homes.

⑦ She taught the children how to read, write and how to keep themselves clean.



⑧ In 1952 she opened her first "Home for the Dying" in a Hindu temple which was no longer used.

⑨ Mother Teresa trained girls in the difficult work of helping the poor. Many young Indian girls chose to be followers of the nursing nun.

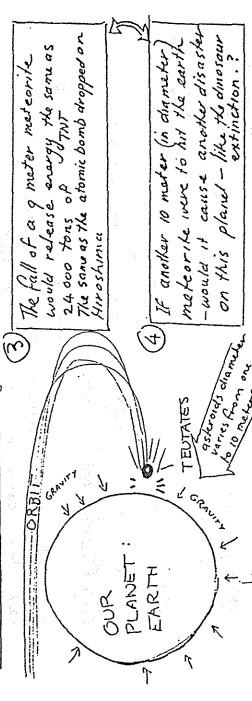
ASTEROIDS

① 65 million years ago the dinosaurs became extinct. Some scientists believe that their extinction was caused by a huge asteroid hitting the earth.

② A one kilometer meteorite would release energy the same as the explosion of a 100,000 megaton nuclear bomb - this is more than 4 million times more powerful than the Hiroshima bomb.

③ The fall of a 9 meter meteorite would release energy the same as 24,000 tons of TNT. The same as the atomic bomb dropped on Hiroshima.

④ If another 10 meter (in diameter) meteorite were to hit the earth - would it cause another disaster on this planet - like the dinosaur extinction? ?



1. Scientists are arguing that an asteroid could hit the earth in the year 2000.
2. The name of the asteroid is "Teutates".
3. Teutates orbits the sun once every 398 years.
4. Scientist fear that the gravity pull of the earth could pull it to earth.
5. Many Japanese astronomers are skeptical (doubtful) of this happening.

Fill the Gaps!

1. The name of the asteroid that may hit the earth (year 2000) is TEUTATES.
2. The fall of a 9 meter meteorite would be like the Hiroshima Bomb.
3. Japanese scientists are doubtful that a collision would occur.
4. The extinction of dinosaurs may have been caused by a huge asteroid hitting the earth.
5. An orbiting asteroid may be pulled to the earth by gravity.
6. The diameter of an asteroid varies from one to ten miles.
7. Dinosaurs became extinct about 65 million years ago.
8. A star is generated by the force of gases.
10. A star contracts gases existing between stars.



Birth Of Star Cluster Witnessed

1992.10.21

NAGOYA—The birth of a star cluster was observed for the first time in the world by researchers at the Science Department of Nagoya University.

The team headed by Yasuo Fukui, an assistant professor of the department, observed the star formation in the dark nebula of the Bull. The findings were presented at the meeting of Japan Astronomy Society held in Nagoya, which started Tuesday. The Bull is about 400 light-years away from Earth.

A star is generated by the force of

gravity, which contracts gases existing between stars. A dark nebula is believed to be a place where a star tends to be born, because it has high gas density.

Fukui said his team used a radio telescope to observe electromagnetic waves emanating from the gases in the dark nebula in the Bull.

The team detected the process in which a star was being generated from gases with high density, and a number of clusters of gases from which stars were to be born.

The team also found out that it

takes a dark nebula in the Bull about 300,000 years to form gases with density high enough to generate a star, then another 10,000 years before a star is actually born.

Fukui said, "We believe our research has paved the way to further trace the process of a star's birth. We already have started to observe that process in the Serpent and Orion. We hope that we can complete observation of all constellations that can be seen from Japan before the next century comes."

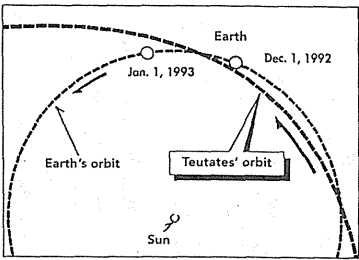
Asteroid-Earth Collision Looming?

Scientists Argue Over Likelihood Of Disaster In The Year 2000

The prediction by a French astronomer late last month that an asteroid will hit the Earth in the year 2000 has caused controversy around the world, with many scientists in Japan denying the possibility of such a collision.

The asteroid Teutates, discovered in 1989, orbits the sun on a wildly elliptic orbit. One orbital rotation is 3.98 years. But the distance from the sun varies sharply from a perihelion of just 135 million kilometers (closer than the Earth's orbital distance of approximately 150 million kilometers) to an aphelion of 600 million kilometers.

The French astronomer said the asteroid will pass between the moon and the Earth on Sept. 20, 2000, based on the assumption that Teutates has a diameter of one kilometer. If the asteroid should be deflected even a little from its regular orbit under the influence of lunar gravity, or even the Earth's own gravitational force, there is a possibility it could collide with the Earth, he said.



Position of the Earth and the Teutates calculated by Kosai

that year, will be no closer than 7.65 million kilometers, he said.

Makoto Yoshikawa, a scientist at the Postal and Telecommunications Ministry's research institute, and Takuo Nakamura, an instructor at the National Astronomical Observatory, agree with Kosai on the Dec. 8 near miss. However, they disagree on his later calculations, arguing instead that Teutates will next pass the Earth at a distance of about 5.05 million kilometers on Nov. 30, 1996. And the next time, on Oct. 31, 2000, it will be even

farther away, at 11.1 million kilometers. The asteroid will come as near as 1.5 million kilometers from the Earth in 2004, the closest it will come for the next 100 years.

Though the calculations by the Japanese astronomers thus deny the possibility of collision, they still differ radically from each other. The calculations must at present include many uncertain factors because, since its discovery, Teutates has not come close enough to the Earth to be adequately studied.

One of the unknowns, for example, is its size, which must be estimated from its brightness. The estimated diameter of the asteroid varies anywhere from one to 10 kilometers.

Prof. Tadahiko Mukai of Kobe University said the estimated orbit of the asteroid still has an error factor, that is larger than the Earth's radius. "If the orbit can be accurately calculated based on the observations to be conducted in December, then it should settle the argument once and for all over whether a collision will occur," he said.

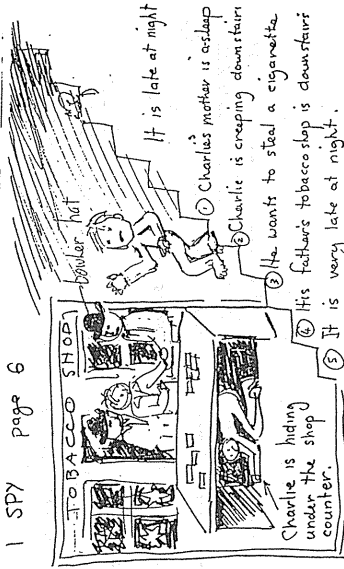
Researchers at Lowell Observatory in the United States have called for the world's astronomers to collaborate on observing the asteroid.

What would happen if the asteroid should hit the Earth? According to calculations by Hajime Koshiishi, a senior engineer at the Remote Sensing Technology Center of Japan, the fall of a nine-meter meteorite would release energy equivalent to 24,000 tons of TNT, the same as the atomic bomb dropped on Hiroshima.

A one-kilometer meteorite would release energy equivalent to the explosion of a 100,000-megaton nuclear bomb, more than 4 million times more powerful than the Hiroshima bomb, Koshiishi said.

A well-known theory attributes the extinction of dinosaurs about 66 million years ago to the collision of a 10-kilometer-diameter asteroid with the Earth at a relative speed of 60 kilometers per second, or 81,000 kph. Will Teutates cause another disaster on this planet?

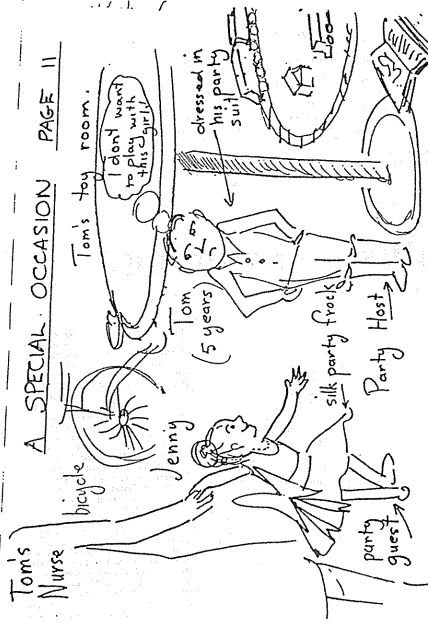
1 SPY page 6



It is late at night
 ① Charles' mother is asleep
 ② Charles is creeping down stairs
 ③ He wants to steal a cigarette
 ④ His father's tobacconist shop is downstairs
 ⑤ It is very late at night
 ⑥ Charles is very very nervous.

Charles is hiding under the shop counter.

- ⑦ Charles heard footsteps and security man outside.
- ⑧ He prayed "Oh God, don't let me be caught."
- ⑨ Charles hid under the counter. He stole some cigarettes from coats.
- ⑩ Two men in bowler hats and mackintoshes came inside.
- ⑪ Charles' father was between them. (escorted by them)
- ⑫ Charles' father took some cigarettes.
- ⑬ He said "It's a good business... I suppose my wife will sell out."
- ⑭ He didn't want to say good bye to his sleeping wife.
- ⑮ Charles witnessed his father being taken to jail.
- ⑯ Charles didn't realise his father was going to jail.
- ⑰ Why did Charles creep down stairs?
- ⑱ Who came into the tobacco shop?
- ⑳ Who were the two men with Charles' father?
- ㉑ What were the men going to do with Charles' father?



A SPECIAL OCCASION PAGE 11

Tom's Nurse
 Jenny
 Tom (5 years)
 Party Host
 Party guest
 silk party frock
 bicycle
 Tom's toy room.
 I don't want to play with this girl!
 dressed in his party suit
 Party Host
 Party guest

1. The little girl came to Tom's party.
2. He didn't want to play with the little girl.
3. Tom only wanted to play with his electric train set.
4. Tom didn't take any interest in his party guest.
5. Tom told the nurse he hated Jenny?
6. Jenny said "He is naughty isn't he?"
7. Then Tom got angry. He grabbed her hair. She bit him.
8. Tom threw his engine across the room.
9. Tom put on a "tantrum" (a display of his temper)
10. Tom shouted at his nurse. "I hate her... I never wanted her."
11. Tom howled for five minutes. The girl went outside.
12. Jenny returned & said "I've come back!"
13. Jenny felt happy. She had got Tom into trouble. She had won!
1. Why did Jenny come to Tom's house?
2. Did Tom want to play with her?
3. What games did they play?
4. Why did Tom put on a big tantrum?
5. Why was the champion of the day? Why?

2. 5 高校2年生(42期生)

2. 5. 1. ティーム・ティーチングと早口ことば

早口ことばは、授業のウォームアップとして用いられることが多いと思う。またワンショットのティーム・ティーチングなどで取り入れられることも少なくない。英語の授業の雰囲気づくりなどにも役立つと言えよう。

しかし、外国人教師(ALT)との授業で早口ことばを扱う場合、その扱いは注意する必要がある。日本人教師(JTE)と外国人教師、そして生徒という立場をうまく活かしながら、それぞれのinteractionを取り入れた活動の一例であることに留意してほしい。

まず活動を3つのパートに分ける。

<パート1>

JTEが黒板やプリントなどを使って、早口ことばをゆっくりと読んであげ、生徒は十分に口慣らしをしておく。次に市販の音声テープなどを活用しながらモデルを提示し、生徒が早口ことばに挑戦する。このときALTはあえて参加させないことがポイント。

タイミングを見計らって、生徒に“Do you want Mrs. Petersen to try this tongue twister?”と問いかける。必ず“Yes!”という反応が得られる。ALTが挑戦したのち、こんどは“Do you want Mr. Taniguchi to try it this time?”という切り返しが待っているはず。JTEは覚悟を決めて挑戦する。このとき完璧に行えれば生徒からの拍手喝采がわき起こるであろうし、たとえうまくできなくても爆笑のウズとなるであろう。そして、次の段階として個々の生徒を指名したり、列ごとの競争などを行いたい。

<パート2>

多くの場合、パート1までの活動で終わってしまうが、さらに活動を発展させる必要がある。具体的には、JTEがALTに“Please teach us some tongue twisters in your country?”とたずねるのである。筆者は、オーストラリア出身であるALTが好きな早口ことばを教えていただいた。動物好きの彼女らしさが出ている好例だと思う。

① Red leather, yellow leather. (4回繰り返し)

② Hey, Mother. Pass the other udder over to my other brother. (udderは「牛のおっぱい」の意味)

<パート3>

教えてもらった早口ことばにJTE、生徒が挑戦する。そのあとでJTEがALTに“Do you want to try Japanese ones?”と問いかける。そして生徒からALTに、日本の早口ことばを教えるように働きかける。生徒は「生麦、生米、生卵」などの例を出すであろう。このとき最初はゆっくりと、次に早口で提示させることが重要である。

JTE, またはALTがその生徒に“What does it mean?”とたずね、意味を確認させる。“Unsteamed wheat, unsteamed rice, unboiled egg.”などの回答が出て興味深い場面でもある。最後に、生徒にモデルになってもらい、ALTに挑戦させる。

2. 5. 2. 考察

この活動の利点をいくつか挙げてみたい。

(1) 準備が簡単である。

準備は英語の早口ことばをいくつか準備するだけでよい。黒板に書くなり、プリントを用意することで事足りる。あまり多くならないように注意したい。

(2) 全員参加型の言語活動である。

教室の誰もが参加することができる活動であり、列ごとの競争などではクラス全体が盛り上がることができる。また日本の早口ことばをALTに教える作業は、コミュニケーション活動に近いものと言える。

(3) Interactiveな活動となりうる。

JTEやALT、そして生徒それぞれの役割がはっきりしており、相互にコミュニケーション・ギャップも存在する。したがってティーム・ティーチングの活動例としては好ましい活動と見なせる。

(注) 本編は『英語教育研究 (FELT) Vol. 9』(財団法人・語学教育研究所)に所収の拙稿を加筆したものである。

2. 6 LLの活動

2. 6. 1. オーラル・コミュニケーション能力の育成とLL機器を利用した授業

本年度から始まる英語科の新しい研究題目について、筆者はLL教室での授業が主だったので、LL機器をどのように利用してオーラル・コミュニケーション能力を育成するかという観点からの実践報告になる。

実践報告の前に、LL機器を利用した授業について考えてみたい。LL教室での授業で目指す目標がそもそもオーラル・コミュニケーション能力、特にリスニング能力を育成することである。したがって、オーラル・コミュニケーション育成のためにはLL機器を利用した授業は最適なものであると考えられる。ただし、LL機器が万能であるはずもなく、前述のように、リスニング能力を伸ばすのには最適であるが、スピーキング能力を伸ばすのにはAETとのチーム・ティーチングの時間などの方が適しているのではないかと、個人的には考えている。もっとも、相手の言っていることが分からなければコミュニケーションが成立しないわけだから、リスニング能力の育成に重点をおいてLL機器を利用した授業を行っても、「オーラル・コミュニケーション能力の育成」の一翼を担っていると割り切って、筆者はLLの授業を行っている。

2. 6. 2. 実践例

筆者は、中学1年・高校1年・高校2年を担当したので、この3学年の実践報告になる。

(1) 中学1年生(46期生)

中学1年次は、正確な発音ができるようになること、要点をつかんで聞き取ることができるようになることの2点に目標を置いて指導している。

2学期までは授業の前半は大修館の「LL教本 英語発音ベーシックコース」を利用して発音の基礎を指導する。内容は、個々の音素の聞き取り、発声、聞き分けなどが中心である。聞き分けのテストが1課ごとについてるので、難しいものについてはアナライザーを利用して記録・評価している。教材は、自宅で復習できるように、練習と同時に生徒のブースで録音している。

授業の後半は、Oxford University Pressの*Listen First*を利用して聞き取りの訓練を行う。このテキストは最近出版されたもので、入門期の聞き取り訓練を行うのには非常に適した教材で、テキストを最後までやっていると自然な速さに近い英文の要点が聞き取れるようになるように工夫されている。英文を聞いて要点をつかみ、何らかの作業をさせるようになっているので、楽しく授業が行える。テキストの後半は、難しい語彙も含まれているがスク립トを教材提示装置やコンピュータ画面で提示しながら授業を進めている。3学期からは、授業の前半に大修館のフレッシュ・LL・イングリッシュ・コースを用いてLL機器の機能をフルに利用した授業を行い、後半に、前述の*Listen First*を用いて授業を行っている。フレッシュ・LL教本の構成は対話や説明文を聞き、内容理解のテストがあり、その後で、ポイントになる表現の練習・対話練習・ディクテーションなどを行うようになっている。担当した授業では、授業の最初にポイントの表現を

説明しながら一斉に録音する。そのあとで、一斉授業の形式で内容テストの理解度チェック（毎回アナライザーを使用）をしたあとで、自学自習の形式で生徒各自のペースで残りの部分を学習させる。その間に、教師が生徒の練習の様子をモニターして指導する。このような、授業形態になる。この教材は未習の文法事項がかなり出てくるので、中学1年では少し難しいが、3学期であることと、3学期に行えるのは最初の6課くらいであるため、どうにかこなしている。アナライザーのテストの結果をみても、毎回85~90%の正答率は確保している。

(2) 高校1年(43期生)

高校1年では、まとまった文章を聞いて大まかな内容をとらえることとともに、細かい部分も正確にとらえるということを目指して、LLの授業を行った。

後者の目標のために利用したのは、Lingual Houseの*Listening in the Real World*でリダクションやアシミレーションなどの音変化を聞き分けたり、それらが含まれる文をディクテーションさせたりする教材である。これをウォーミングアップ的に授業の前半に用いた。

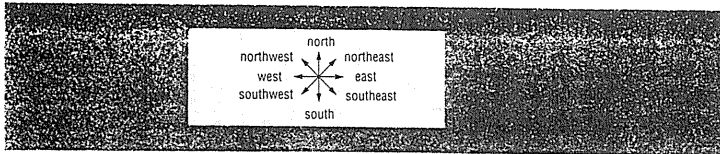
また、前者の目標のために*Listen For It*を用いた。この学年は中学3年次からこのテキストを利用していたので、2年目ということになる。中学3年には少し難しい教材なので、聞いたあとでスクリプトを提示していいいな説明を加えた結果、進度が遅れ半分くらいしか終わられなかったためである。大まかな内容をとらえて何らかの作業をさせる教材で、内容も変化に富んでよくできた教材である。この教材の後半は、大まかな内容を理解するだけならとばしてできるのだが、それではもったいないので、聞いたあとでスクリプトを提示して説明を加えた。どちらの教材も作業させながら録音させ、自宅で復習できるようにしたが、まじめに復習したのは小数のようであった。この学年の大部分の生徒は中学1年のときからLLの授業をうけているので、リダクション・フォームなどはある程度は自然に聞き取れるようになっていたが、体系的に学習するのは始めてであったので、大多数の生徒は興味を持って取り組んだが、テキストが難しく量もおおいので苦勞していた。リスニングの能力の向上には大いに効果があったはずである。

(3) 高校2年(42期生)

高校2年生は、基礎的なリスニングの訓練は高校1年までで終わっているもので、内容のあるリスニング教材を用いてリスニング能力の向上をめざした。選んだ教材はLongmanの*Coast to Coast 3*である。この教材はリスニング部分はかなり難しいが、文化的・文学的な内容なども含まれた総合的な教材で読解力も向上させることもできるように配慮されている。文学的な内容の例として、S. F. Fitzgeraldの*The Great Gatsby*やTennessee Williamsの*A Streetcar Named Desire*のパスセージが載っているのだが、最近の生徒はこういうものにあまり興味を示さないようがっかりさせられた。また、聞き取りの訓練もまじめにやりたがらないので、2学期の途中でLLの授業を切り上げ、作文の授業に切り替えることになった。

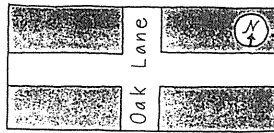
2. 6. 3. 1年次のまとめ

「オーラル・コミュニケーション能力」のうち、リスニング能力に限れば、これまでの実践例（前年度までの英語科の研究「中・高一貫教育におけるL1学習指導のあり方を探る」）からも、ある程度のカリキュラムの方向性は打ち出せそうである。基本的には「大まかな内容」から、「細かい内容まで正確に」聞き取るという方向でまとめていけばよいのではないかと考える。

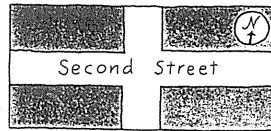


5

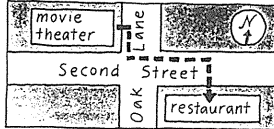
Look and listen.



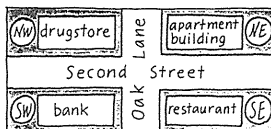
1.



2.



3.



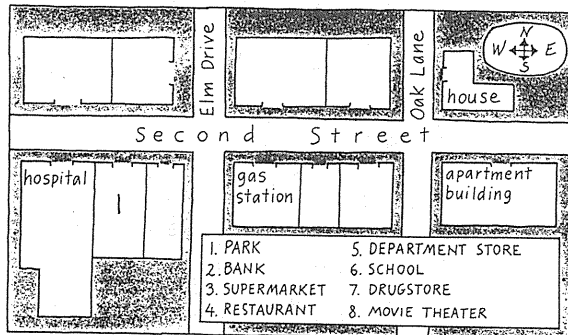
4.

Exercise 6. Write the correct numbers on the map.

- Look at the map. The park is number 1. It's next to the hospital, on Second Street. The park is next to the hospital, on Second Street.
- The bank is number 2. The bank is across from the hospital, on Second Street. It's on the north side of Second. The bank is on Second, across from the hospital.
- The supermarket is number 3. It's on the northwest corner of Elm Drive and Second Street. It's around the corner from the bank, on the northwest corner of Elm and Second. It's around the corner from number 2.
- The restaurant is number 4. It's next to the park, on the southwest corner of Elm and Second. The restaurant is on the southwest corner of Elm Drive and Second Street. It's next to number 1.
- The department store is number 5. It's on the northeast corner of Elm and Second, across from the gas station. The department store is on the northeast corner of Elm and Second, across from the gas station.
- The school is number 6. The school is next to the department store, on Second Street. It's on the northwest corner of Oak and Second.
- The drugstore is number 7. It's across from the school, on Second Street. It's on the southwest corner of Oak and Second. The drugstore is on the southwest corner of Oak and Second, across from number 6.
- The movie theater is number 8. The movie theater is between the gas station and the drugstore, on Second Street. The movie theater is on the south side of Second Street, between the gas station and number 7.

6

Write the correct numbers on the map.



Listen First Oxford University Press
リスニングの問題とスクリプト

Lesson 9 The Great Salt Lake

(Workbook pp.17-18, Tape 3-1[14'39"])

<p.17>

9-1 Basic Dialogues [0'41"]

Listen and repeat:

- 1. A: What is the largest lake in Japan? #
- B: I think Lake Biwa is. #
- 2. A: It's about seven times as large as Lake Biwa. #
- B: What a large lake! #

9-2 Conversation [2'51"]

Listen:

- Mr. Green: Look at this map, Mariko. Do you know this lake?
- Mariko: Yes. It's the Great Salt Lake.
- G: Good. What is the largest lake in Japan?
- M: I think Lake Biwa is.
- G: That's right. Now, which is larger, Lake Biwa or the Great Salt Lake?
- M: I'm sorry, I don't know.
- G: The Great Salt Lake is. It's about seven times as large as Lake Biwa.
- M: Seven times! What a large lake!
- G: Our class is going there next week.
- M: How nice! I'd love to see it.

Words and Phrases

Listen and repeat:

- Lake Biwa # (x2), about seven times # (x2), as large as # (x2), I'd love to # (x2)

Listen again: -- repeated rather slow --
 Listen again: -- repeated --

Fresh LL English Course 大修館
 レッスンの一部のスクリアプト

9-3 Aural Check [2'24"]

Listen and choose A or B:

- 1. What is Mariko looking at? (x2)
 - o A) She is looking at a map. (x2)
 - o B) She is looking at a textbook. (x2)
- 2. Does Mariko know what lake is the largest in Japan? (x2)
 - A) No, she doesn't. (x2)
 - o B) Yes, she does. (x2)
- 3. Which is larger, Lake Biwa or the Great Salt Lake? (x2)
 - A) Lake Biwa is. (x2)
 - o B) The Great Salt Lake is. (x2)
- 4. How large is the Great Salt Lake? (x2)
 - o A) It's about seven times as large as Lake Biwa. (x2)
 - o B) It's the largest lake in Japan. (x2)
- 5. Where is their class going next week? (x2)
 - o A) To the Great Salt Lake. (x2)
 - o B) To Lake Biwa. (x2)

<p.18>

9-4 Review [2'10"]

Listen: -- 9-2 repeated --

Listen, fill in, and repeat:

- 1. Mariko is (looking) at the (map). # (x2)
- 2. She knows what (lake) is the (largest) in Japan. # (x2)
- 3. The Great Salt Lake is (larger) (than) Lake Biwa. # (x2)
- 4. It is about seven (times) as (large) as Lake Biwa. # (x2)
- 5. Their (class) is (going) to the Great Salt Lake. # (x2)

1 Consolidation

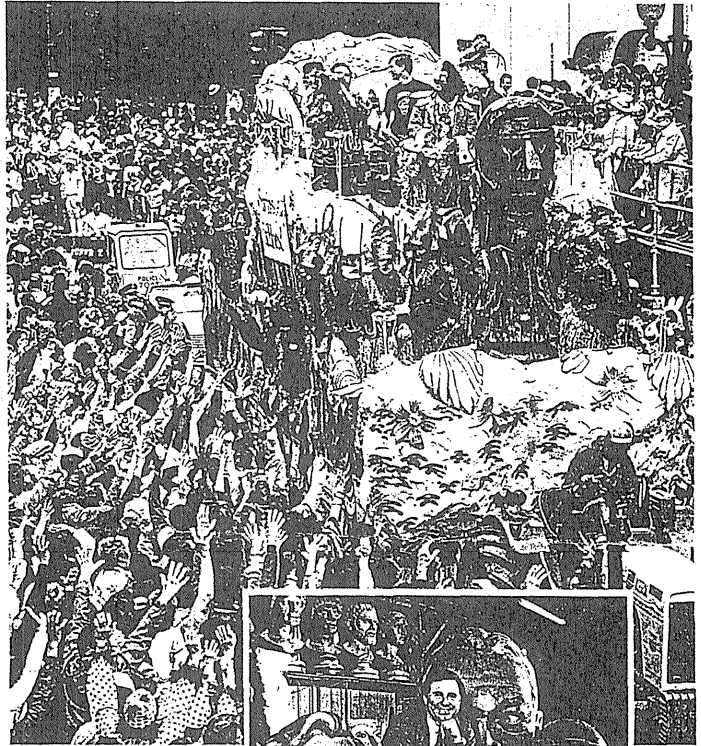
Mr. Mardi Gras

Blaine Kern builds parade floats for the Mardi Gras carnival in New Orleans.

"When I came out of the army, I was wondering what to do. My mother was sick and we didn't have much money, so we were getting pretty desperate. Her doctor was the captain of one of the carnival clubs—we call them krewes—and he asked me to paint a mural to pay my mother's medical bill. So I did it. And he liked it! After that I started painting floats for parades too, and they were a success. Then I traveled to Valencia in Spain and Viareggio in Italy—oh, and France and Austria—to see their carnivals and to buy masks, and I came back here to make our parades more beautiful and more exciting than ever before.

I design floats and these giant-sized figures. I remember one year I made figures of the President as a character from the movie *Star Wars*, our local governor as the French king Louis XIV, and the New Orleans mayor as Napoleon! But it's all done strictly in fun, and people always accept it.

After the carnival's over, I'm taking a vacation with my family because right now I'm exhausted. But I'll be back. I reckon I'll be working for Mardi Gras until I drop!"



Blaine Kern

1

Look and listen. Ask and answer questions about the text using *who*, *what*, *why*, *where*, and *when*.

2

Say what you know about one of the following:

- how Blaine Kern first started working for the Mardi Gras
- Blaine Kern's travels
- figures in the Mardi Gras parade

Language focus

3

- 1 Find two ways of referring to the past in the text.
- 2 Find at least two different ways of referring to the future in the text.

Discussion

4

Blaine Kern talks about making figures of the President as a character from a movie, and of the governor and the mayor as historical figures.

Think of three well-known people (or of three friends). What historical or fictional figures should they appear as?

3. おわりに

今後の課題を以下に整理してみる。

- (1) オーラル・コミュニケーションの活動例を検討して、中学校と高等学校の重点目標をそれぞれ設定して、中・高の連携をはかる。
- (2) 授業と評価は表裏一体の関係にあるので、オーラル・コミュニケーション活動の評価について、検討する必要がある。評価の方法も、従来主として行われてきたテープによるリスニングテストや、録音による方法だけでなく、授業中の観察やオーラル・インタビュー等の実技テストも積極的に取り入れていくことが大切である。又、指導要領の改訂に伴う観点別の評価についても、論議が必要である。
- (3) 指導法の改善をはかる。具体的にはLL教室やAETとのチームティーチングの指導法の改善のみならず、学習形態の工夫（ペアワーク、グループワーク、個別指導）など様々な分野での改善が求められている。
- (4) オーラル・コミュニケーション能力の育成を目指した中・高一貫のカリキュラムを編成する。